平成28年度 第3回刈谷市行政評価委員会 議事要旨

- 日 時 平成28年1月24日（火）午後3時30分～5時00分
- 場 所 刈谷市役所 502会議室
- 出席者 昇秀樹、吉本理沙、加藤時彦、近藤克麿、近藤哲夫、天野櫻子
- 欠席者 都築繁幸
- 事務局 市長、両副市長、企画財政部長、企画財政部企画政策課長 他

(以上、敬称略)

1 議題・協議結果

(1) 外部評価実施結果に対する市の方針及び対応について

資料「平成28年度外部評価実施結果に対する市の方針及び対応報告書」により説明。委員会から市に提出された外部評価実施結果報告書に対して、市の対応方針や考え方の報告を行った。

(2) 行政評価の取組実績と次年度の方針について

資料「平成28年度第3回刈谷市行政評価委員会」により説明。行政評価委員会を導入した6年間の成果を評価手法、過去の外部評価実施後の取組事例、職員の意識改革、市民意識調査結果と様々な視点から報告を行った。

次年度は、総合計画に掲げる複数の施策を横断した「刈谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の事業を中心に推進状況を検証していく予定。

2 会議資料

資料：平成28年度第3回刈谷市行政評価委員会

平成28年度外部評価実施結果に対する市の方針及び対応報告書

第7次刈谷市総合計画

3 議事要旨

○出欠席の確認

○会議資料の確認

(1) 平成28年度外部評価実施結果に対する市の方針及び対応について

(事務局より、資料「平成28年度外部評価実施結果に対する市の方針及び対応報

告書」の説明)

(2) 行政評価の取組実績と次年度の方針について

(事務局より、資料「平成28年度第3回刈谷市行政評価委員会」の説明)

委員 「効率的な行政運営が行われていると思う市民の割合」という指標は、具体的にどのような聞き方で調査を実施しているのか。

事務局 「効率的な行政運営が行われていると思う」かの設問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の中から回答を選択してもらっている。

委員長 効率よく行政運営が行われているかを市民は何を基準に回答していると思うか。

事務局 市民が市役所に対して一定の信頼をおいている物差しとして捉えている方が大きいかもしれない。毎回多数の市民を対象にアンケートを実施して、一定程度の結果がでているので、それなりに信頼いただいていると考えている。

委員長 市民が行政を信頼しているかは、大きくは効率性と公平性である。あまり設問を増やしにくいかもしれないが、効率性にプラスで公平性な行政運営などを入れて、クロス集計で見るとすればわかりやすくなる。

「事業の目的を常に意識するようになった職員」は、わかりやすい指標であるが、まだ満足すべき数値ではなく、せめて5割以上の職員は意識して欲しい。色々事例を紹介してもらったが、他にも行政評価によって効果があったことはあるか。

事務局 外部評価の対象となった課は、緊張感を持って対応しており、また指標については、より適切なものを設定しないといけないというのは特に管理職は理解している。

委員 来年度は行政評価委員会にて、まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理を行うということだが、刈谷市は人口が増えており、人口減少している他市町村や国が進めていく流れと違う。それでもこの戦略を取り上げるということではどうか。

事務局 仮に他市町村と流れは違っていても、将来を見据えて、人口問題について考えないといけないため、重要な戦略として位置付けており、外部の方の意見をいただきたい。

これまでは総合計画に位置付けられた施策ごとに、目標に対して効果

的な事業に取り組んでいるか評価いただいていたが、人口問題を雇用やまちの魅力などの観点から、施策を横断して評価いただくイメージである。

委員 総合戦略について、どういう特色が打ち出せるのか興味がある。というのも、刈谷市は多くの自動車関連企業が集積しているが、現在、中小企業は人材不足で悩んでいる。特に市内の高校卒業生が集まらず、そんな状況の中でどうしたら人を集めることができるか、また、他県からたくさんの方の就職者を集めるために何をすべきかを行政も一緒になって考えていただけるとありがたい。

委員長 何年くらい前から減っているのか。

委員 1年半くらい前から。この地域の新聞を見てもらうと、求人広告がかなりの量なのでわかっていただけると思う。

このエリアの特色で、大手企業優先で就職するため、中小企業には人が回らず、九州、沖縄などの遠方で採用活動しなければならない。

また、人を呼び込んでも、地価が高いことからリーズナブルで住ませる所、あるいは寮を建てる土地もないなど受入体制も整っていないので、良い施策があれば、刈谷市により多くの方が集まり、企業が活性化し、まちも財政も潤っていくのではないかと。

委員長 安倍内閣では、労働力の確保として、女性、高齢者、外国人に働いてもらおうと考えているが、刈谷ではどのような状況か。

委員 企業の規模によって異なるが、製造業では外国人は頼りになる。

事務局 採用活動に関しては補助金を出すなどしており、来年度も支援をするため予算を組んでいる。

委員長 根本的に18、22歳人口が減っていくなかで、刈谷市の産業構造でどう担い手を確保するか、どの分野で優先順位をつけて充てていくかは、企業だけでなく行政も一緒に考えなければならない。

事務局 刈谷市の人口構造は、20歳前後の転入により増加し、40前後で転出する傾向がある。就職で来た人をそのまま刈谷に定住してもらうために出て行かない魅力を作っていくという組み立てで考えている。今、言われた意見は、総合戦略の中に不足している部分であるので、来年以降、そういう視点でのご意見もいただきたい。

委員長 今、話が出た労働力の不足など、解決策は難しいかもしれないが、ま

ずは問題を認識することから始まり、どういったことが出来るかを議論していくことが大事である。

人口ビジョンできめ細かく年齢別の人口推計がはじき出せたことにより、具体策が出しやすくなっているので、行政職員は市民と問題を共有して、是非チャレンジして欲しい。

委員 個人的には、働いている若年層の生活が大変であるように思える。暮らしやすくなるような優遇策があると、もっと刈谷で頑張ろうとなってくれるのではないかと思うので、働く若年層を何とか幸せにしてあげたい。

委員長 アメリカを例にするとわかりやすいが、経済的に余裕がない人は、大学へ行くために軍隊に入り、そこで得たお金を元手に借金している。ただ、多くの若い人が戦争で死んでいる。日本はここまでわかりやすすくないが、諸事情により大学へ進学できず、希望の就職が叶わない人もいる。まずは金銭面を含め、この問題を考えていることが当人たちに伝わる仕組みが大切である。これを行政だけでなく、色んなコミュニティを含めてできると良い。

副市長 人手不足や工業用地確保などの問題を市内の企業から色々な話は聞いているので、総合戦略の中でどう対応できるかは検討が必要である。

また、今回の対象施策であった子育て支援の現場から「もっと伝えたいことがあった」「小さな成果も拾い上げてもらいありがたかった」「外部の方の現場視察による普段とは違う緊張感、充実感があった」「市の対応報告書を見て、自分たちの取り組みと市役所職員との方向性の共有が図られていることがわかった」との感想をいただいた。

委員会での意見に対して、市役所の中だけで対応していくのではなく、今回であれば現場の先生たちや子育て関係職員を巻き込んで、対応策や考え方を共有していくことが大事であると感じた。

副市長 行政評価の技術的な話でいえば、成果指標は一事務事業ではなく、複数の事務事業が束になった施策に対して設定していく方が適切であると考えている。

また、事業費について、よく費用に対していつ頃回収できるかという質問があるのだが、非常に難しい質問である。そもそも、儲けが出る事業は民間企業が実施する方が望ましい。もちろん、道路を造るのであれ

ば時間の短縮や燃料代等をお金に換算して事業効果を出す、実際にお金が戻ってくるわけではないので、その部分を評価するのは抽象的になってしまう。

総合戦略について、定住人口を増やしていくために、色々な施策を実施していくのだが、よく言われるように刈谷は地価が高い。例えば、小中学校を充実させれば、需要も増えるが地価も上がるといったトレードオフの関係など非常に難しい部分もあるので、来年度以降、行政評価委員会の中でそういったことも議論していただけると良い。